

# 大谷翔平選手握手像ができるまで

## 1. 測定

握手像の制作は、水沢鋳物工業協同組合（及川勝比古理事長）が、平成28年12月に策定した「南部鉄器産地活性化計画」の中にこれを盛り込んだことを契機に、市と同組合が実現に向けて動き出したものです。

最初の工程である手の測定作業は29年1月、大谷選手と北海道日本ハムファイターズ（竹田憲宗代表取締役社長）のほか、地方独立行政法人岩手県工業技術センター（齋藤淳夫理事長）と東京貿易テクノシステム（増田克彦代表取締役社長）の協力により、最新の三次元形状測定機を使って行われました。

この測定データを基に、本市の伝統的工芸品である南部鉄器の技術を用いた型作成・鑄造・研磨の工程を経て、約2カ月かけて握手像が完成。まさに最新のテクノロジーと伝統の技術が融合した作品といえます。

今回、市広報は制作に携わった地元企業を訪問。制作の様子を取材し、職人の皆さんから大谷選手への熱い応援メッセージをいただきました。



手の測定作業は千葉県鎌ヶ谷市のファイターズスタジアムで行われた。測定機のレーザーで目を傷めないようサングラスを着用した大谷選手に、しっかりと握手の手の形を作ってもらい測定開始



▲角度を変えながら手全体を測定し、約4分で作業が完了。練習の合間をぬって協力してくれた大谷選手、ありがとうございました



モニターで測定結果をチェック▶



水沢鋳物工業協同組合  
後藤 安彦 専務理事

### Interview 握手像制作の仕掛け人に聞く

大谷翔平選手は、昨年のプロ野球ペナントレースや日本シリーズなどで「二刀流」として輝かしい活躍と偉大な記録を残し、数々の賞を受賞しました。中でも「日本プロスポーツ大賞」の受賞は、大谷翔平選手と奥州市の名前を、日本はもとより世界に広めてくれました。

私たち組合ではこの偉業を記念して、市民だけでなく本市を訪れる人たちが大谷選手を激励できる物を作りたいと考えました。また、本市に暮らす子どもたちが、夢に向かって進む勇気と元気を大谷選手からもらえるようにと思い、握手像の制作を計画しました。

多くの皆さんに握手してもらい、大谷選手に激励の気持ちを送ってほしいですし、市民や国民から愛される選手として、大谷選手にはこれからもどんどん活躍してほしいですね。

## 2. 型作成

◀鑄造時に不良が出ないように測定データを修正。地元鋳物メーカーを中心に東北各地から受注を受け、自動車部品などの木型・金型を設計・製造しているノウハウを生かす



鑄型の元になる手のプラスチック模型を作成した3Dプリンター。三次元測定から立体に起こす技術は、普段から南部鉄器などの工芸品にも使われている

常人では考えられないすごい活躍は、日本の宝だと感じています。故障なく長く活躍して、これからも子どもたちに夢を与えてほしい。そして、ときどき地元に戻ってきて、子どもたちと触れ合ってくれればうれしいです。



前田合金鑄造所  
前田 亮一 代表取締役社長 前田 洋 取締役会長

◀溶かした金属を鑄型に流し込む鑄造作業。材料には、色合いと光沢が良い「高力黄銅（こうりきおうどう）」が選ばれた。高力黄銅は小型船舶の放熱器の部品などに用いられている



プラスチックの模型を元に砂で作った鑄型。重量を軽くするため、中子（なかご）を入れ空洞を作る。中子やそれを支える芯金の大きさ、位置などによっても出来栄は変わってくる



## 4. 研磨

◀自動車のエンジンや農機具などの部品の研磨が行われている工場で、握手像の研磨作業が進む。工業部品ではあまりない曲面の研磨作業は難しく、慎重に作業が行われた



力強さやリアルさが出るように、研磨機の手先を替えながら細部まで丁寧に磨きかける。磨くほどに握手像の光沢は増していった

## 3. 鑄造

郷土の偉人、阿弭流為は民を守るため戦い、後藤新平は大風呂敷を広げてまだ見ぬ国の未来を見せてくれました。大谷選手は「世界中の人々に感動と勇気と笑顔を与える」そんなベースボールプレーヤーになってくれると期待しています！



ベルモデル（鈴木昭美代表取締役社長）  
蒔田 伸昭 金型課長 菊池 孝一 専務取締役

岩手の小さなまちから生まれた大谷選手がプロで活躍している姿を見ると、すごくうれしいワクワクします。いずれ世界に羽ばたいていくと思いますが、世界でも「二刀流」で活躍してほしいと願っています。これからも応援しています。



筑摩水沢（及川和也代表取締役）  
布佐 純一 A.I.Mgリーダー